

コンピュータの利用行動と態度に関する研究¹⁾

——『コンピュータに対する意識調査』の調査対象者の特徴——

斎藤和志²⁾・吉崎一人²⁾・逸村 裕³⁾・三和義秀³⁾

I. 問題と目的

本学文学部図書館情報学科、コミュニケーション学科においては、コンピュータ（パソコン）を利用した教育がそれぞれの学科のカリキュラムの中で重要な役割を果たしている。情報学といった領域においてコンピュータの利用は必須であろうし、コミュニケーション行動を研究対象とする行動科学の領域においてもコンピュータの利用は欠かすことができない。その利用形態は情報の収集および分析のみならず、論文の作成や通信といったように広範なものである。

1995年に発売された新しいOS（Operating System）の影響もあってか、社会的な動向としてもコンピュータの普及はめざましいものがある。それは、企業のみならず、一般家庭への浸透を促進することになった。教育の場においても、こうした傾向を反映して、単なるコンピュータ教育ではなくその活用能力に焦点を当てた教育が目指されている。本学に新しく開設された現代社会学部はその典型といえるものになるかもしれない。しかしながら、こうした新しい教育には試行錯誤的な側面が多分に含まれていることは否定できない。すなわち、理想的には、学生に対して、コンピュータに対するより受容的な態度を形成することであるが、現実には逆の方向の極端な否定的・拒絶的態度を形成することがある。

教育機関におけるコンピュータの利用は、大学のみならず、小学校段階から開始されるようになってきている。しかしながら、小学校段階でのコンピュータ利用は、教科との関連が強く、現状においてカリキュラムの中に位置づけられた授業形態は、全体としては非常にまれであると考えられる。そうした意味では、専門学校や大学・短大教育においてはその特徴を出すための試みが既に行われ始めているし、その必要性が強調されることになる。コンピュータ教育またはコンピュータを利用した教育がカリキュラムの中に位置づけられることによってさまざまな問題が生じてくると考えられる。

コンピュータが学校教育の中である種の位置を占めるようになり、その影響がいくつかの観

1) 本研究は平成7年度愛知淑徳大学研究助成共同研究『情報処理教育におけるコンピュータに対する態度とその変容に関する研究』の一部である。

また、本研究の一部は廣岡秀一助教授（三重大学教育学部）と共同で行われている。

2) 愛知淑徳大学文学部コミュニケーション学科

3) 愛知淑徳大学文学部図書館情報学科

点から検討されている。たとえば、コンピュータの利用経験がコンピュータのイメージに及ぼす影響について、野中（1991）は、小学校4年生の児童を対象にして、コンピュータの利用に関するオリエンテーションの違いがイメージに及ぼす影響を、コンピュータの利用経験がない児童を対象に調査している。探索奨励的オリエンテーションと探索抑制的オリエンテーションの効果を10項目の形容詞対で比較した結果、探索抑制的オリエンテーションを行った方が、“便利な”“簡単な”“利口な”“早い”というイメージを強めていた。ここでの探索奨励的オリエンテーションとは「自由座席、『コンピュータはなかなかこわれない』ことを示唆、自由にいろいろやってみることを奨励、児童同士の教え合いを奨励、教師の個別指導なし」であるのに対し、探索抑制的オリエンテーションは「座席指定、『こわれやすい』『高価な機器である』ことの強調、使い方の指示徹底、必要に応じて教師が個別に指導する」ものであった。また、稲葉・坂元（1991）は、高校生の日常の利用経験と特性の関係を吟味している。

大学・短大における影響もいくつかの観点から検討されている。たとえば井上（1989）は、短期大学におけるパソコン実習の前後でのイメージを比較検討している。12個の形容詞対に対する反応を半期の実習の前後で比較した結果、“友好態度の因子”と関連して“明るい”“楽しい”方向への変化が認められた。また、実習前の“機能に対する恐れ”も実習によって減じられていた。さらに、感情尺度（好ましき-嫌悪感、親しみ-恐れ）とコンピュータ関係の仕事に就く意図との相関は実習後に高くなっている点、感情は実習によって好意度が高くなるので、実習で高まった好意が就職の意図に結びつく点が示唆されている。また、新美（1988）、中林（1993）、定免ら（1993）の一連の研究は、愛知淑徳短期大学コミュニケーション学科におけるコンピュータ教育の状況をイメージを中心として検討している。新美（1988）では、49項目の形容詞対の因子分析の結果、“親近度”“使用意欲”“完成度”“活動性”の4因子を抽出している。さらに、井口ら（1991）や中尾・安達（1994）では、コンピュータ親和度という観点から検討を進めている。また、平田（1990）や今栄（1991）は、コンピュータ不安を測定する尺度を作成している。コンピュータ不安とは、一般に、コンピュータと接触するとき、コンピュータとの接触へと導く何かをするとき、あるいはコンピュータ利用の意味について考えたりするとき個人の内に喚起される不安ないし憂慮と考えられている（平田、1990）。

このように、コンピュータとの関わりを考える際に、“イメージ”“親和度”“不安”といった反応が用いられてきた。“イメージ”を測定した研究においても、その意味内容から“親近度”“使用意欲”“完成度”“活動性”などの因子がみられている。また、“親和度”や“不安”といった一面性だけを取りあげるのではなく、包括的な傾向を測定するために、コンピュータに対する態度の測定を試みる研究もある。廣岡・岡本（1994）は、コンピュータに対する態度測定を、尺度構成の基本的手続きによって試みている。すなわち、①コンピュータに対する態度を表すステートメントの収集、②予備調査の実施、③因子分析による態度記述次元の抽出、④態度尺度の構成および妥当性の確認、といった手続きである。因子分析の結果、“感情的反応”“利用意欲”“熟達意欲”“コンピュータ社会に対する不安”“過大評価”の5因子を得ている。

本研究の全体的枠組みは、コンピュータに対する態度を多面的にとらえることによって、既

にコンピュータを利用した教育(コンピュータ教育というよりも情報処理教育の手段としてのコンピュータ利用)を実践している教育機関(大学・短期大学)において、①コンピュータおよびその教育・利用に対して学生はどのような特徴的な態度をもっているのか、②利用経験または授業経験によってその態度はどのように変化するのか、③そうした特徴および変化はどのような要因と関連しているのか、を中心として検討することである。こうして得られた知見は、カリキュラムの再編成や授業内容の構成を考える際に役立つと期待されるだけでなく、学生の抱く無用な不安を低減することに役立つことができるであろう。そうした枠組みの一部として、①大学生のコンピュータ経験とコンピュータに対する態度の関係、②コンピュータに対する態度とコンピュータ操作熟達者および自己イメージとの関係、③コンピュータに対する態度と対人的志向性との関係、の3点に焦点を当てた調査を実施した。本稿は、その調査対象者のコンピュータ経験について、その概略を報告するものである。

Ⅱ. 方 法

1. 調査内容

『コンピュータに対する意識調査』というタイトルで実施された調査は、以下の4側面から構成されていた。詳しくは付録を参照のこと。

1) 項目群Ⅰ：中学校～大学におけるコンピュータ接触経験

中学生から大学生に至る過程で、コンピュータの操作を学ぶ授業、利用した授業、学校外での利用等の経験をたずねた。また、今後の利用意欲、学習意欲、コンピュータを活用する職業への魅力と、家庭での利用状況をたずねた。

2) 項目群Ⅱ：コンピュータに対する態度尺度

廣岡・岡本(1994)で収集されたコンピュータに対する態度の80項目を使用した。この項目は“感情的反応”“利用意欲”“熟達意欲”“コンピュータ社会に対する不安”“過大評価”の5因子から構成されると考えられる。

3) 項目群Ⅲ&Ⅴ：対人認知尺度

「コンピュータの操作に卓越した」人や「コンピュータが使いこなせている」という人(パソコン熟達者)に対するイメージを、林(1991)の15項目でたずねた。この項目は、好意・親和に關した“個人的親しみやすさ”、尊敬・信頼に關した“社会的望ましさ”、活動性と意志の強さに關した“力本性”の3次元で構成されている。また、比較のために自己イメージをたずねた。

4) 項目群Ⅳ：対人的志向性尺度

斎藤・中村(1987)の作成した対人的志向性尺度の18項目を実施した。対人的志向性とは、他者に関する反応性と關連した概念であり、この得点の低い人は合理性に価値をもっていると予想される。

2. 調査対象者および調査時期

今回の調査では、愛知淑徳大学文学部コミュニケーション学科の学生を中心に考えたため、比較のために同大学の文学部図書館情報学科、現代社会学部、および愛知県の私立A大学経営学部の学生を対象として調査を実施した。愛知淑徳大学現代社会学部：271名、愛知淑徳大学文学部：794名、A大学経営学部：231名の計1,296名に実施した。調査時期は1995年12月から1996年1月である。

Ⅲ. 結果と考察

1. 分析のための群の構成

調査対象者を所属学科と学年から分類し、100名以上のサンプルを得た8群を比較のための群とした(表1)。ただし、調査対象者に偏りがあるため、分析の目的によって適切な群を比較する必要がある。たとえば、愛知淑徳大学における現代社会学部1年生とコミュニケーション学科1年生の比較、愛知淑徳大学コミュニケーション学科における1年生～4年生間の比較、愛知淑徳大学コミュニケーション学科3年生と図書館情報学科3年生との比較、および愛知淑徳大学コミュニケーション学科3、4年生とA大学経営学部3、4年生の間での比較などである。ここでは8群全体の傾向を記述する。以下、愛知淑徳大学の現代社会学部を“現社”、コミュニケーション学科を“コミ”、図書館情報学科を“図情”、A大学経営学部を“経営”と略記し、その後に学年を表す数字をつけて表記する。

表1 各群の構成 (%)

	現社1	コミ1	コミ2	コミ3	コミ4	図情3	経営3	経営4	全体
男性	53 (19.6)	17 (9.8)					96 (79.3)	91 (84.3)	257 (20.1)
女性	217 (80.4)	156 (90.2)	154 (100)	172 (100)	165 (100)	113 (100)	25 (20.7)	17 (15.7)	1019 (79.9)
全体	270 (21.2)	173 (13.6)	154 (12.1)	172 (13.5)	165 (12.9)	113 (8.9)	121 (9.5)	108 (8.5)	1276 (100)

2. 中学時代のパソコン利用

中学時代のパソコン操作の授業があったと答えた人の割合、パソコンを利用した授業があったと答えた人の割合、授業外の利用の程度(4段階)についてまとめたものが表2である(欠損値があるため、対象人数は若干異なる)。全体的には9.6～13.2%の学生が中学時代にパソコンの操作やパソコンを利用した授業を受けている。学年が低い群ほど利用条件が整っていると考えられ、1年生では17.9%～28.0%がそうした経験をしている。また、授業外利用の程度に関して8つの群による差異はみられなかった。

表2 中学時代のパソコン利用

	現社1	コミ1	コミ2	コミ3	コミ4	図情3	経営3	経営4	全体
操作授業	19.8	17.9	8.4	2.9	2.4	8.0	3.3	3.7	9.6
利用授業	28.0	19.8	16.2	3.5	6.1	8.8	4.1	1.8	13.2
授業外 利用	1.30 0.52	1.26 0.48	1.23 0.42	1.23 0.46	1.21 0.44	1.17 0.38	1.22 0.49	1.30 0.55	1.25 0.47

*『操作授業』『利用授業』は「有」と解答した人の割合。
『授業外利用』は4段階評定、下段は不偏標準偏差。

3. 高校時代のパソコン利用

高校時代の利用状況(表3)も、中学時代と大きな差異はないようである。中学時代の利用状況は1年のみが特徴的であったが、この段階では2年でもやや利用経験者が多い。授業外の利用の程度に関しても、8つの群間に大きな差異はみられなかった。

表3 高校時代のパソコン利用

	現社1	コミ1	コミ2	コミ3	コミ4	図情3	経営3	経営4	全体
操作授業	9.6	13.9	18.3	11.1	7.9	4.4	3.3	3.7	9.6
利用授業	19.6	22.5	23.4	13.4	7.3	12.4	4.9	3.7	14.6
授業外 利用	1.41 0.64	1.36 0.53	1.41 0.49	1.37 0.53	1.39 0.53	1.22 0.41	1.27 0.51	1.29 0.53	1.35 0.54

*『操作授業』『利用授業』は「有」と解答した人の割合。
『授業外利用』は4段階評定、下段は不偏標準偏差。

4. 大学時代のパソコン利用と意識

大学時代のパソコン操作の授業があったと答えた人の割合、パソコンを利用した授業があったと答えた人の割合、授業外の利用の程度(4段階)についてまとめたものが表4の上段と中段である。ここでは、すべての側面で8群間に差異がみられた。中学・高校時代も同様であるが、質問項目としての「操作授業」と「利用授業」の定義が回答者に適切に伝わらなかった点があるので、この点に関しては今後検討する必要がある。大学時代の授業外利用(表4の中段)をみると、コミュニケーション学科の2年生～4年生と図書館情報学科3年生の利用が多いことがわかる。

また、今後の利用意欲(表4の下段上)に関しては、現代社会学部1年生が特に高く、コミュニケーション学科1、2年生がそれに次いでいた。この傾向は学習意欲(表4の下段中)においてもみられる。パソコンと関連する職業への魅力(表4の下段下)の分析に当たっては「わからない」と回答したものをのぞいている。現代社会学部1年生が高い値を示していた。

表4 大学時代のパソコン利用と意識 (%)

	現社1	コミ1	コミ2	コミ3	コミ4	図情3	経営3	経営4	全体
操作授業	67.0	91.3	99.3	54.1	28.7	82.3	41.8	33.0	63.5
利用授業	51.4	70.8	94.8	74.9	32.3	94.5	23.1	24.8	58.8
授業外 利用	1.93 0.79	1.83 0.68	2.34 0.63	2.23 0.72	2.28 0.83	2.35 0.69	1.69 0.70	1.68 0.71	2.05 0.77
利用意欲	3.63 0.56	3.30 0.74	3.32 0.68	3.08 0.81	3.01 0.76	3.09 0.80	3.02 0.83	2.88 0.84	3.23 0.77
学習意欲	3.56 0.62	3.19 0.77	3.16 0.70	2.87 0.82	2.87 0.84	2.93 0.88	2.92 0.84	2.81 0.88	3.10 0.82
職業魅力	2.81 0.84	2.36 0.77	2.36 0.79	2.27 0.79	2.17 0.81	2.34 0.79	2.31 0.73	2.20 0.82	2.40 0.83

* 『操作授業』『利用授業』は「有」と解答した人の割合。
『授業外利用』『利用意欲』『学習意欲』は4段階評定、下段は不偏標準偏差。
『職業魅力』は「わからない」をのぞいた人の4段階評定、下段は不偏標準偏差。

5. パソコン関連機器の所有と利用

パソコン、ワープロ、電子手帳、テレビゲーム、英文タイプライターという5種類の機器を提示し、その所有と利用についてたずねたが、ここではパソコンとワープロについてのみ表5に示した。数値は所有者または利用者の割合である。

家庭でのパソコン所有率をみると、現代社会学部は別として（大学入学時に個別に所有することになっているので）、図書館情報学科3年が40%と比較的高いものに対して、コミュニケーション学科では10~15%にとどまっている。しかしながら、本人以外の家族の所有はコミュニケーション学科では25~31%と他の群よりも高いのが興味深い。また、ワープロの所有率になると、現代社会学部25%、図書館情報学科48%に対してコミュニケーション学科では学年の進行につれて、41%、53%、64%、73%と増加している。

表5 パソコンとワープロの所有状況と利用状況 (%)

	現社1	コミ1	コミ2	コミ3	コミ4	図情3	経営3	経営4	全体
パソコン所有									
本人	79.4	12.3	15.0	10.4	11.3	40.2	12.1	16.7	29.2
家族	10.5	28.1	24.5	30.7	29.6	18.8	18.1	17.6	21.8
パソコン利用									
本人	79.8	18.0	20.0	17.3	14.3	44.0	13.3	17.3	32.4
家族	8.5	21.0	17.9	21.8	22.1	11.9	16.8	13.3	16.4
ワープロ所有									
本人	25.3	41.3	52.7	64.3	72.7	47.7	41.0	49.1	47.8
家族	44.4	40.1	34.0	23.8	18.0	27.5	30.8	28.3	32.1
ワープロ利用									
本人	29.6	60.7	70.9	76.8	85.4	60.2	53.0	50.0	59.3
家族	31.6	19.6	13.5	11.9	5.1	9.3	14.8	25.0	17.5

6. 対人イメージと対人的志向性

パソコン熟達者と自分に対するイメージをたずねた項目に関して、林 (1991) に従い、個人的親しみやすさ、社会的望ましさ、力本性の3側面にまとめた結果を表6に示した。得点は各5項目の平均を示しているため、1点から7点の範囲に分布する。パソコン熟達者のイメージは、全体としては社会的望ましさを高く認知しているが、個人的親しみやすさや力本性は4点(中点)以下であった。また、自己イメージについては、個人的親しみやすさや社会的望ましさを高く評価しているのはコミュニケーション学科の3、4年生とA大学経営学部3、4年生であった。自己の力本性の側面に関しては、コミュニケーション学科の学生と経営学部の4年が高い値を示していた。対人的志向性は18項目の合計得点を示した(18点~90点)。対人的志向性はコミュニケーション学科の学生が高い値を示しており、当該学生が対人的側面に対して関心を持っている傾向がうかがえる。

表6 対人イメージと対人的志向性 (平均値/不偏標準偏差)

	現社1	コミ1	コミ2	コミ3	コミ4	図情3	経営3	経営4	全体
パソコン熟達者のイメージ									
個人的親しみやすさ	3.85	3.84	3.72	3.80	3.78	3.94	3.67	3.61	3.79
	0.61	0.48	0.56	0.59	0.59	0.58	0.62	0.62	0.59
社会的望ましさ	4.47	4.49	4.82	4.70	4.74	4.51	4.41	4.36	4.57
	0.62	0.56	0.71	0.60	0.63	0.57	0.56	0.74	0.64
力本性	3.77	3.81	4.00	3.88	3.77	3.78	3.46	3.41	3.76
	0.65	0.59	0.67	0.76	0.73	0.56	0.75	0.84	0.71
自己イメージ									
個人的親しみやすさ	4.38	4.36	4.56	4.72	4.89	4.34	4.72	4.90	4.58
	0.78	0.74	0.82	0.84	0.78	0.72	0.84	0.86	0.82
社会的望ましさ	4.40	4.21	4.48	4.57	4.70	4.33	4.61	4.68	4.48
	0.73	0.76	0.72	0.74	0.76	0.69	0.89	0.81	0.77
力本性	4.10	4.17	4.23	4.28	4.45	3.97	4.22	4.32	4.21
	0.83	0.77	0.77	0.80	0.82	0.74	0.85	0.93	0.82
対人的志向性	64.53	65.17	66.85	65.88	67.36	62.83	64.33	62.94	65.14
	7.87	8.16	7.24	7.85	6.91	8.42	7.72	8.66	7.94

7. ま と め

今回の調査では、愛知淑徳大学(文学部794名と現代社会学部271名)と私立A大学(経営学部231名)に対して調査を行った(総計1,296名)。本学における被調査者についての結果をまとめると次のようになる。

中学時代における授業外でのパソコン利用の程度には差がみられなかったが、高校時代になると、現代社会学部1年生とコミュニケーション学科2年生が比較的利用程度が高く、図書館情報学科3年生が低くなっていた。しかし、大学時代の授業外利用は1年生が上級生に比べて低くなっていた。低学年ほど環境的に整備された状況に移行していると考えられるが、積極的な利用は大学における基礎的な技能の習得後に現れるとも考えられる。

家庭でのパソコンの所有率をみると、現代社会学部は別として、図書館情報学科3年が40%と比較的高いものに対して、コミュニケーション学科では10~15%にとどまっている。しかしながら、本人以外の所有はコミュニケーション学科では25~31%と他学科よりも高いのが興味深い。また、ワープロの所有率になると、現代社会学部25%、図書館情報学科48%に対して、コミュニケーション学科では学年の進行につれて、41%、53%、64%、73%と増加している。

今後のパソコン利用意欲についてみると、2年生以下と3年生以上で分かれ、低学年が意欲を示しているのに対して、高学年では「人並みに困らない程度」となってくる。この傾向はパソコンに対する学習意欲においても同様であるが、この点に関しては現代社会学部1年生が他の群に比べて最も高い値を示していたのが特徴である。また、パソコンを活用する職業に対する魅力は、現代社会学部1年生が最も高く、コミュニケーション学科4年生が最も低かった。

8. 今後の進展

今回の研究では3つの観点から分析・検討を進めている。①本学における学生のコンピュータ経験とコンピュータに対する態度の関係、②コンピュータに対する態度とコンピュータ操作熟達者および自己イメージとの関係、③コンピュータに対する態度と対人的志向性との関係、の3点である。また、どのような学生がどのようなコンピュータとの関わりを予期しているか、またはどのような志向（たとえば、職業や余暇・趣味としての関わり）を形成するかについても継続的に検討していきたい。

文 献

- 林文俊 1991 対人認知 宮沢秀次・二宮克美・大野木裕明（編） 自分でできる心理学 ナカニシヤ出版 Pp.74-77.
- 廣岡秀一・岡本みどり 1994 コンピュータに対する態度尺度の構成一質問紙による心理測定の一例として一 愛知淑徳大学「コミュニケーションと人間」, 3, 31-45.
- 平田賢一 1990 コンピュータ不安の概念と測定 愛知教育大学研究報告（教育科学編）, 39, 203-212.
- 井口磯夫・中尾茂子・安達一寿・橋本克己 1991 短期大学生のコンピュータ親和度の分析 教育情報研究, 7(2), 31-42.
- 今栄国晴 1991 コンピュータ経験とコンピュータ不安 日本教育心理学会第33回総会発表論文集, 653-654.
- 稲葉哲郎・坂元 章 1991 男子高校生のコンピュータ私岡者の特性に関する研究 日本社会心理学会第32回大会発表論文集, 272-273.
- 井上和子 1989 コンピュータの接触がコンピュータのイメージに及ぼす影響 日本教育心理学会第31回総会発表論文集, 271.
- 定免美奈・斎藤和志・新美明夫・松尾貴司・高橋啓介・小林真利子 1993 コンピュータに対するイメージ変化と実習成績に関する検討一利用経験およびコンピュータ不安との関連から一 愛知淑徳短期大学研究紀要, 32, 113-130.
- 小林真利子・新美明夫・斎藤和志・松尾貴司・高橋啓介・定免美奈 1993 最近5年間における新入生のコンピュータ・イメージの変化一コンピュータ実習科目における今後の対応のために一 愛知淑徳短期大学研究紀要, 32, 97-112.

- 中尾茂子・安達一寿 1994 プログラミング学習に対するイメージとコンピュータ親和度との関連 教育情報研究, 10(4), 3-10.
- 新美明夫 1988 利用経験によるコンピュータに対するイメージの変化-本学コミュニケーション学科学科生を例として- 愛知淑徳短期大学研究紀要, 27, 33-44.
- 野中陽一 1991 学校でのコンピュータ利用が児童に及ぼす影響について(1)-導入時の指導が児童のコンピュータイメージに及ぼす影響について- 日本教育心理学会第33回総会発表論文集, 655-656.
- 斎藤和志・中村雅彦 1987 対人的志向性尺度作成の試み 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 34, 97-109.



コンピュータに対する意識調査

この調査は、みなさんのコンピュータの利用状況やコンピュータ等に対する意識について知るためのものです。調査の結果はすべて集団として集計され、個人がどのように回答したかは問題されませんので、日頃感じているままをお答えいただき、本調査にご協力くださいますようお願いいたします。

調査実施者の指示に従い、下の_____部分に記入し、該当する箇所の数字を○で囲んでください。

_____大学 _____学部

_____学科 専攻領域：1・文系 ・ 2・理系

学年：_____年 年齢：_____歳 性別：1・男性 ・ 2・女性

氏名：_____

調査実施日：平成_____年_____月_____日

調査主体：愛知淑徳大学 文学部
APC研究会
連絡先：愛知淑徳大学 文学部
コミュニケーション学科 斎藤 和志
Tel 0561-62-4111 (内線)424

I. 以下の質問にお答えください。なお、特に指示がない限り、いくつかの選択肢の中から最もあてはまるものを1つ選び、その数字に○をつけてください。

注：以下の質問で、「コンピュータの操作を学ぶ授業」とはコンピュータの操作やアプリケーション・ソフトの操作自体を目的とした授業であり、「コンピュータを利用した授業」とは授業(教科)の目的のために手段としてコンピュータを利用するようなものを指します。

- あなたは中学生の時に、コンピュータの操作を学ぶ授業を受けたことがありますか。
1・ない 2・ある → 授業科目名：_____
- あなたは中学生の時に、コンピュータを利用した授業を受けたことがありますか。
1・ない 2・ある → 授業科目名：_____
- あなたは中学生の時に、授業以外でコンピュータを利用したことがありますか。
1・まったく利用していなかった 2・少し利用していた
3・かなり利用していた 4・いつも利用していた
- あなたは高校生の時に、コンピュータの操作を学ぶ授業を受けたことがありますか。
1・ない 2・ある → 授業科目名：_____
- あなたは高校生の時に、コンピュータを利用した授業を受けたことがありますか。
1・ない 2・ある → 授業科目名：_____
- あなたは高校生の時に、授業以外でコンピュータを利用したことがありますか。
1・まったく利用していなかった 2・少し利用していた
3・かなり利用していた 4・いつも利用していた
- あなたは(現在の学校に入学してから)過去1年間に、コンピュータの操作を学ぶ授業を受けたことがありますか。
1・ない 2・ある → 受講科目数：_____科目
授業科目名：_____
- あなたは過去1年間に、コンピュータを利用した授業を受けたことがありますか。
1・ない 2・ある → 受講科目数：_____科目
授業科目名：_____

9. あなたは過去1年間に、授業以外でコンピュータを利用したことがありますか。

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1.まったく利用していなかった | 2.少し利用していた |
| 3.かなり利用していた | 4.いつも利用していた |

10. あなたはこの先、どの程度コンピュータを利用したいと考えていますか。

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1.活用したいとは思わない | 2.少しは活用してみたい |
| 3.人並みに困らない程度に活用したい | 4.積極的に活用したい |

11. あなたはこの先、どの程度コンピュータの勉強しようと考えていますか。

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1.勉強したいとは思わない | 2.少しは勉強してみたい |
| 3.人並みに困らない程度に勉強したい | 4.積極的に勉強したい |

12. 現時点で、あなたはコンピュータを活用する職業にどの程度魅力を感じていますか。

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1.まったく魅力を感じない | 2.少し魅力を感じる |
| 3.かなり魅力を感じる | 4.非常に魅力を感じる |
| 5.わからない(考えたこともない) | |

13. 次にあげる機器の所有状況や利用状況についておたずねします。

A. あなたの自宅(下宿を含む)には次の機器がありますか。あなたがもっている場合は1を、あなた以外の家族がもっている場合には2を、もっていない場合には3を()の中に記入してください。

B. 次の機器は主にあなたが利用しますか。あなたが主に利用する場合は1を、あなた以外の家族が主に利用する場合は2を、あまり利用しない場合(もっていない場合を含む)には3を()の中に記入してください。

	A. 所有	B. 利用
1.パソコン	()	()
2.ワープロ	()	()
3.電子手帳	()	()
4.テレビゲーム(ファミコン)	()	()
5.デジタルタイプライター	()	()

14. 上の質問13でパソコンを利用していると回答した方のみおたずねします。そのパソコンをどのようなことに利用していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | | |
|---------|----------------|-----------------|--------------|
| 1.ワープロ | 2.表計算 | 3.データベース | 4.グラフィックス |
| 5. CAD | 6. DTP | 7. 通信 | 8. 言語/ソフトウェア |
| 9. 業務業種 | 10. ゲーム/ソフトウェア | 11. その他 (_____) | |

II. 以下にコンピュータに関するさまざまな意見が書かれています。それぞれの意見は、今のあなた自身にどの程度あてはまるりますか。「全くあてはまらない」から「非常にあてはまる、までの5段階のうち、最もあてはまる数字に○をつけてください。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 … 全くあてはまらない | 2 … あまりあてはまらない |
| 3 … どちらでもない | 4 … ややあてはまる |
| 4 … ややあてはまる | 5 … 非常にあてはまる |

- | | |
|---|-------------------|
| 1. コンピュータと聞くだけで、機な気分になる | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 2. コンピュータの操作を疎えりと解放感を感じる | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 3. コンピュータをうまく使いこなせると充実感を感じる | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 4. コンピュータが動く仕組みが理解できないので、不安である | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 5. 人間に代わって機械が仕事することに賛成である | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 6. コンピュータがうまく使えると偉くなったような気がする | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 7. コンピュータを使用する事が好きである | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 8. コンピュータを使用しなければならぬと考えただけで頭が痛くなる | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 9. コンピュータを落ち着いて操作することができる | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 10. 人間を相手にしているよりもコンピュータを相手にしている方が楽だ | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 11. 現代社会にとってコンピュータは必要不可欠だという意見を聞くと不安になる | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 12. 操作をまらげたときのコンピュータの反応が怖い | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 13. コンピュータは私にとって脅威である | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 14. コンピュータは使用する人を緊張させる | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 15. コンピュータの操作は難しい | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 16. コンピュータが使えるということは素晴らしい | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 17. コンピュータという言葉は好きだ | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 18. コンピュータを操作するのに、何の恐れも不安もない | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| 19. コンピュータの操作はおもしろい | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |

1 … 全くあてはまらない	2 … あまりあてはまらない
3 … どちらでもない	4 … ややあてはまる
5 … 非常にあてはまる	

- 61. コンピュータのキーを打つのが面倒なので、自分がしゃべった言葉をそのまま記憶してくれるようなコンピュータがあれば良い 1—2—3—4—5
- 62. 今よりもさらに広い分野でコンピュータは利用されるべきだ 1—2—3—4—5
- 63. コンピュータ用語は横文字が多くわかりにくい 1—2—3—4—5
- 64. 高齢者や障害を持つ人でも使えるような操作の容易なコンピュータが開発され、福祉に活用されると良い 1—2—3—4—5
- 65. コンピュータを用いることで仕事の効率が上がる 1—2—3—4—5
- 66. コンピュータは人間よりも有能である 1—2—3—4—5
- 67. コンピュータさえあればどんな情報でも入手できる 1—2—3—4—5
- 68. 人間の思考よりコンピュータの思考の方が正確で論理関係が明確である 1—2—3—4—5
- 69. コンピュータの世界は自分の考えの及ぶところではない 1—2—3—4—5
- 70. コンピュータを利用した安全管理は信頼性が高い 1—2—3—4—5
- 71. コンピュータで書かれた文字は美しい 1—2—3—4—5
- 72. 学校にコンピュータを導入していくとそのうち教師の存在価値がなくなる 1—2—3—4—5
- 73. コンピュータを使用する教育は個人の能力のレベルに応じて行われるのでよいことだ 1—2—3—4—5
- 74. 人と接することのないコンピュータ教育の結果として、その子たちの人間関係が希薄になる 1—2—3—4—5
- 75. コンピュータも人間のように会話ができるようになり、日常生活に組み込まれるようになると親しみがわく 1—2—3—4—5
- 76. 日常生活にコンピュータはもっと活用されるべきだ 1—2—3—4—5
- 77. 操作を覚えるのが大変なのでコンピュータが便利だとは思わない 1—2—3—4—5
- 78. 機会があればコンピュータに関する勉強をしたい 1—2—3—4—5
- 79. コンピュータの便利さや性能の良さに感心する 1—2—3—4—5
- 80. コンピュータは相当優秀な人にしかできない 1—2—3—4—5
- 81. コンピュータという言葉は好きだ 1—2—3—4—5

III. あなたは、「コンピュータの操作に卓越した」人や「コンピュータが使いこなせている」という人に対して、どのようなイメージをもっていますか。以下の項目について、あてはまる数字に、○を付けてください。

- | | ど
と
も | か
な
り | や
や | ど
ち
ら
え
ど
な
も
い | や
や | か
な
り | ど
と
も | |
|------------|-------------|-------------|--------|--------------------------------------|--------|-------------|-------------|--------|
| 1. 感じのよい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 感じのわるい |
| 2. 無責任な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 責任感の強い |
| 3. 社交的な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 非社交的な |
| 4. 近づきがたい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 人なつこい |
| 5. 慎重な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 軽率な |
| 6. 消極的な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 積極的な |
| 7. 人のよい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 人のわるい |
| 8. 軽薄な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 重厚な |
| 9. 恥ずかしがりの | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 恥知らずの |
| 10. 親しみにくい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 親しみやすい |
| 11. 無分別な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 分別のある |
| 12. うさうさした | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 沈んだ |
| 13. 親切な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | いじわるな |
| 14. 意欲的な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 無気力な |
| 15. 卑屈な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 堂々とした |

IV. 次のそれぞれの項目について、あなた自身に最も当てはまると思う数字に○を付けてください。

1 … まったくそう思わない	2 … どちらかといえばそう思わない
3 … どちらともいえない	
4 … どちらかといえばそう思う	5 … まったくそう思う

1. 他人の行動の動機を知ることに関心がある。 1—2—3—4—5
2. 他人事でも、一言一姿することが多い。 1—2—3—4—5
3. 人が本当はどんな人物であるかに関心がない。 1—2—3—4—5
4. 他人の感情や気持ちを考えることは意味がない。 1—2—3—4—5
5. 人が私の行為についてどのように考えているかということは重要でない。 1—2—3—4—5
6. 人からの批判が気になる。 1—2—3—4—5
7. 自分にとって人間関係は煩わしいものである。 1—2—3—4—5
8. ほほ笑みかけたりいやな顔をする人が気にかかる。 1—2—3—4—5
9. 仕事上の付き合いでは、個人的に親しくなることは重要ではない。 1—2—3—4—5
10. 人付き合いが良い方だと思う。 1—2—3—4—5
11. 自分は自分、他人は他人と割り切って物事を考える方である。 1—2—3—4—5
12. 出会った人とは、できるだけ親密になろうと努力する。 1—2—3—4—5
13. あまり人のことには立ち入らない主義である。 1—2—3—4—5
14. 同じゲームをやるなら、一人でできるものよりも相手がいてできるものの方がよい。 1—2—3—4—5
15. 人のことには関わらずマイペースで行動する方である。 1—2—3—4—5
16. 日頃から人間関係を大事にしている。 1—2—3—4—5
17. 自分とかかわりのある人については、なるべく色々なことを知りたいと思う。 1—2—3—4—5
18. 人から個人的な話をもちかけられるのはわずらわしいものだ。 1—2—3—4—5

V. あなたは自分自身をどのような人だと思いますか、以下の項目について、自分自身のイメージにあてはまる数字に○を付けてください。

- | | | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|---|--|
| | と | か | や | ど | や | か | と | |
| | と | か | や | ど | や | か | と | |
| | も | り | や | ち | や | り | も | |
| | | | | い | | | | |
| | | | | ら | | | | |
| | | | | え | | | | |
| | | | | な | | | | |
| | | | | も | | | | |
| | | | | い | | | | |
1. 感じのよい 1—2—3—4—5—6—7 感じのわるい
 2. 無責任な 1—2—3—4—5—6—7 責任感の強い
 3. 社交的な 1—2—3—4—5—6—7 非社交的な
 4. 近づきたい 1—2—3—4—5—6—7 人なつっこい
 5. 慎重な 1—2—3—4—5—6—7 軽率な
 6. 消極的な 1—2—3—4—5—6—7 積極的な
 7. 人のよい 1—2—3—4—5—6—7 人のわるい
 8. 軽薄な 1—2—3—4—5—6—7 重厚な
 9. 配ずかしがりの 1—2—3—4—5—6—7 恥知らずの
 10. 親しみにくい 1—2—3—4—5—6—7 親しみやすい
 11. 無分別な 1—2—3—4—5—6—7 分別のある
 12. うきうきした 1—2—3—4—5—6—7 沈んだ
 13. 親切な 1—2—3—4—5—6—7 いじわるな
 14. 意欲的な 1—2—3—4—5—6—7 無気力な
 15. 卑屈な 1—2—3—4—5—6—7 堂々とした

ご協力ありがとうございました。